

令和5年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第6学年児童を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国語】

- 文章の意味に合わせた漢字を適切に選ぶ問題はよくできている。
- 複数の資料の内容をまとめた文章を、選択肢の中から正しく選択する問題はできている。
- 文章を読んで分かったことを要約したり、自分の意見をまとめたりする問題に課題がみられる。長文の回答を書くことができずに、未回答のままである児童が1割以上いる。

【算数】

- 伴って変わる二つの量の関係や、計算による求め方に関する問題はよくできている。
- 結合法則、分配法則を使って、複雑な計算を工夫して考える問題はできている。
- 図形概念を正しく理解したり、問題場面に合わせて適切に活用したりする問題に課題がみられる。

2 児童質問紙に関する結果の概要

- 「いじめはどんな理由があってもダメだ」という考えを全ての児童が理解している。
- 外国語の学習への関心が高く、9割以上の児童が英語の必要性を感じている。
同時に外国人や外国への関心が高く「外国を知りたい、知ってもらいたい」という考えが高い。
- タブレットの活用頻度が高く、タブレットでの学習の有用感を非常に高く実感している。
- 大人から自分のよさを認めてもらえている実感が低い児童の割合が高い。
同時に、困った時に大人に相談できずにいる児童の割合が高い。
- 自律的な家庭学習や読書の習慣が定着しておらず、家庭学習の時間も全国に比べて短い。
また、決まった時刻に寝たり起きたりすることができていない児童の割合が高い。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 算数科、国語科における読み書き計算の習熟のための「チャレンジタイム」の全校実施
- ・ 学力向上委員会（学力向上コーディネーター）を核とした、組織的な取組の推進

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 数や図形などの概念を形成する段階での、具体物操作の機会やICTによる視覚資料の充実
- ・ 全ての教科領域において、「自分の意見を書く」「他者の意見を読み比べる」等の、長文に対する読み書きの機会の充実

(2) 児童質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 児童会活動の『ありがとう週間』取組での、異年齢同士でのメッセージ交換と校内掲示、教師や児童会による価値付けの年2回実施
- ・ 授業でのタブレットによる一斉授業や個別課題に応じたドリル学習の全学級での推進

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 睡眠時間や生活リズムの大切さを児童と家庭へ啓発する機会を確保すること
- ・ 学習の達成感や、生活の充実感を得ることができる教師からの関わりの意識の強化